

特定外来生物 同定マニュアル

■ 哺乳類

フクロギツネ	(<i>Trichosurus vulpecula</i>)
ハリネズミ属の全種	(<i>Erinaceus</i> 属)
台湾ザル	(<i>Macaca cyclopis</i>)
カニクイザル	(<i>Macaca fascicularis</i>)
アカゲザル	(<i>Macaca mulatta</i>)
台湾ザル×ニホンザル	
アカゲザル×ニホンザル	
ヌートリア	(<i>Myocastor coypus</i>)
クリハラリス	(<i>Callosciurus erythraeus</i>)
フィンレイソンリス	(<i>Callosciurus finlaysonii</i>)
タイリクモモンガ	(<i>Pteromys volans</i>)
トウブハイロリス	(<i>Sciurus carolinensis</i>)
キタリス	(<i>Sciurus vulgaris</i>)
マスクラット	(<i>Ondatra zibethicus</i>)
カニクイアライグマ	(<i>Procyon cancrivorus</i>)
アライグマ	(<i>Procyon lotor</i>)
アメリカミンク	(<i>Mustela vison</i>)
フィリマングース	(<i>Herpestes auropunctatus</i>)
ジャワマングース	(<i>Herpestes javanicus</i>)
シママングース	(<i>Mungos mungo</i>)
シカ亜科	(<i>Axis</i> 属全種) (<i>Dama</i> 属) (<i>Elaphurus davidianus</i>)
キョン	(<i>Muntiacus reevesi</i>)

フクロギツネ

分類: カンガルー目クスクス科

学名: *Trichosurus vulpecula*

英名: Common Brushtail Possum

和名: フクロギツネ

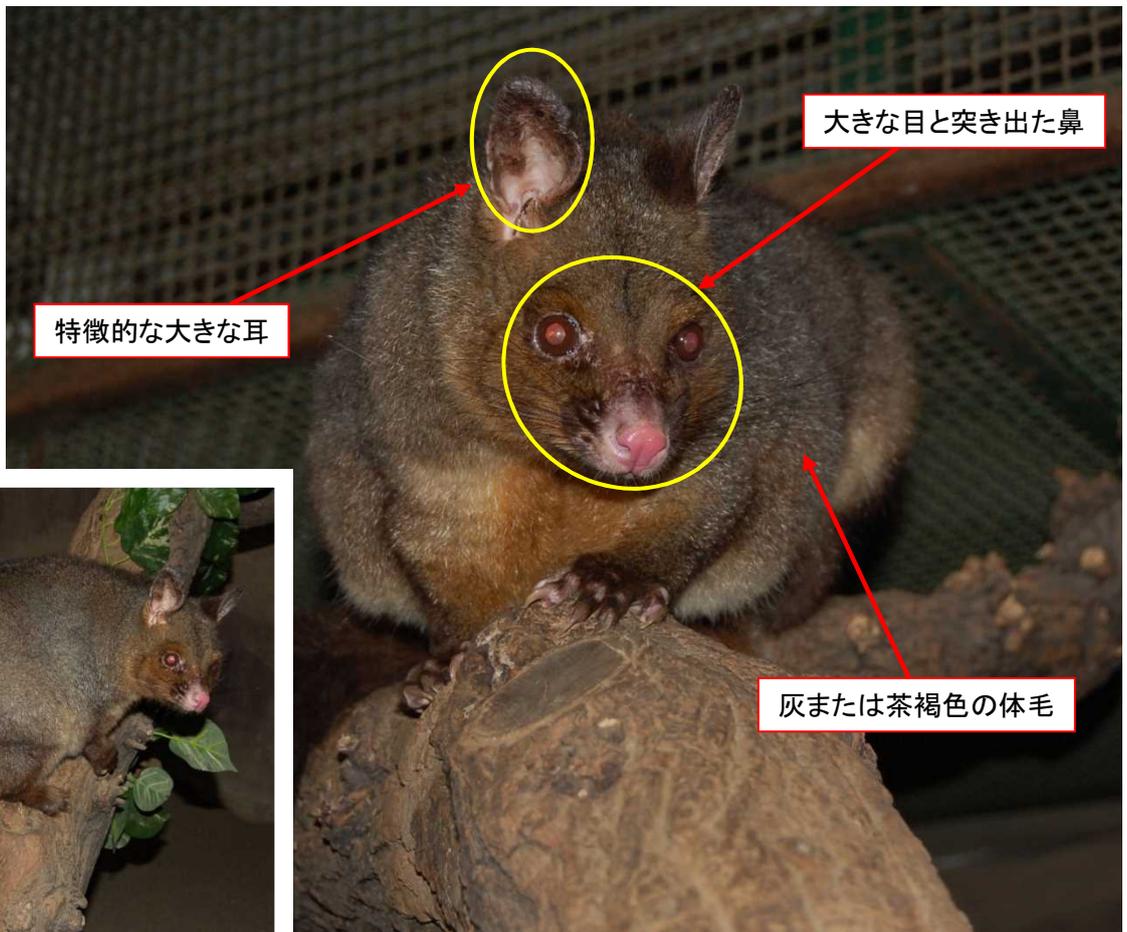
別名・流通名: フクロギツネ、ポッサム

原産地と分布: オーストラリア

未判定外来生物: クスクス科の全種(フクロギツネを除く)。

種類名証明書添付生物: オポッサム科及びクスクス科の全種。

形態的特徴: 頭胴長32~50cm、尾長24~35cm、体重1.4~4.5kg。カンガルーやコアラのようにおなかに袋がある有袋類である。体毛は灰又は茶褐色。耳が大きく、鼻がピンク色なのが特徴。指は5本で大きな爪がある。夜行性で日中は木の上で眠り、夜間活発に活動する。



特徴的な大きな耳

大きな目と突き出た鼻

灰または茶褐色の体毛



円山動物園(撮影者 本田直也)

特記事項: カンガルー目クスクス科は27種からなり、原産地では4亜種に分けられる。フクロギツネ(別名:ポッサム)は、同じ有袋類であるオポッサム科の種と混同させやすいが、フクロギツネはカンガルー目、オポッサム科はオポッサム目であり、まったく異なる。ただし、北アメリカではバージニアオポッサム(キタオポッサム) *Didelphis virginiana* の幼体をポッサムと呼ぶこともある。

ハリネズミの仲間(特定外来種ハリネズミ属)

分類: ハリネズミ目ハリネズミ科

学名: *Erinaceus* spp.

英名: Hedgehog

和名: アムールハリネズミ, ナミハリネズミ, ヒトイロハリネズミ

別名・流通名: ハリネズミ

原産地と分布: イギリスから中国にかけて

未判定外来生物: 特定外来生物とヨツユビハリネズミ属を除く

Erinaceinae (ハリネズミ亜科)全種

種類名証明書添付生物: ハリネズミ亜科全種

形態的特徴: 脚と顔を除けば全体を5000本程の針状毛で覆われている。針状毛の長さは2cm程度。5本の指と短い足も特徴。特定外来生物は体長が20cm以上。特定外来生物に属するハリネズミは個々の針状毛が円筒型で茶色、又はクリーム色をしている。未判定外来生物はアフリカ原産のハリネズミ類で小型である(約10cm程度)では銀色、灰色の体毛。国内で最も流通しているヨツユビハリネズミ(北アフリカ原産)はアフリカハリネズミ属に属するが、これまでの輸入実績から種類名証明添付生物としている。

背中に針状毛を持つ哺乳類

中型の哺乳類 (5~10kg以上) : ヤマアラシ

小型の哺乳類

尾が長く、細長い体型をしている
東南アジア原産 : ジヌムラ亜科
尾が短く、細長い体型をしている
アフリカ原産 : テンレック科

尾が短い (殆ど目立たない)
原産国がユーラシア、アフリカ
丸型の体型

ハリネズミ亜科 (ハリネズミ属, アフリカハリネズミ属)

小型 (手のひらサイズ)
アフリカ原産 (主に北アフリカ)
→アフリカハリネズミ属, オオミミハリネズミ属,
*Mesechinus*属 (ヨツユビハリネズミのみ種類名
証明書添付生物: 後足指は4本)

頭胴長は20cm以上。指が5本
ヨーロッパ、アジア地域原産
→ハリネズミ属



アムールハリネズミ (ハリネズミ属)

特記事項: ハリネズミ目ハリネズミ科は24種からなる。ハリネズミ亜科にはハリネズミ属、アフリカハリネズミ属など5属16種が含まれている。最も輸入量の多かったヨツユビハリネズミの輸入量は減少している。針状毛を持ち、手にすると丸くなって防御体勢になるものは、ハリネズミの仲間のみ。その中で、指が5本あれば全て特定外来生物か未判定外来生物種に含まれている。後足指が4本はヨツユビハリネズミのみ。なおヨツユビハリネズミには、アルビノ個体なども稀に見られ、ペットとして流通している。

台湾ザル

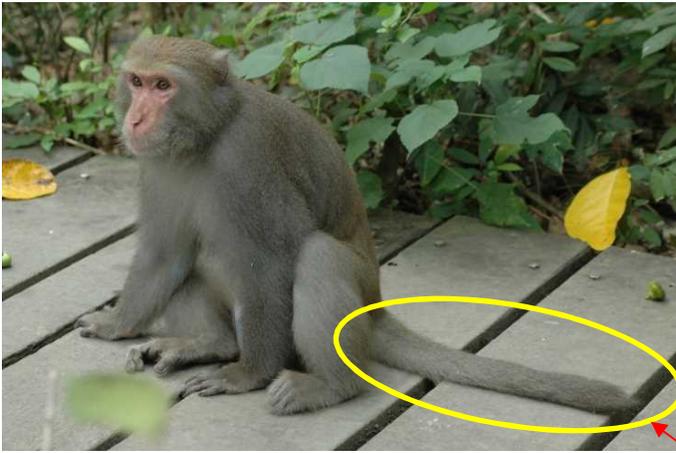
分類: サル目オナガザル科

学名: *Macaca cyclopis*
英名: Taiwan (or Formosan Rock) Macaque
和名: 台湾ザル
別名・流通名: 台湾ザル
原産地と分布: 台湾

未判定外来生物: *Macaca*属の全種(台湾ザル、カニクイザル、アカゲザル、ニホンザルを除く)

種類名証明書添付生物: *Macaca*属の全種

形態的特徴: 全身灰褐色で、四肢の先は黒い。頭胴長: 雄40~54cm、雌36~45cm、体重は6~10kg。毛色は体全体がほとんど灰褐色で、四肢の先は黒い。尾長は頭胴長の7割ほどであり、先端まで太く長いのが特徴的。



尾は長く、先端まで太い

形態的に類似した種との識別点

・ニホンザル

- ・台湾ザルよりもやや大型
- ・尾が短く、10cm程度
- ・毛色は褐色から灰色

尾が短い



特記事項: サル目オナガザル科は132種からなり、台湾ザルはニホンザル *Macaca fuscata* と同じ *Macaca* 属に分類される。伊豆大島ではサツマイモや特産のアシタバなどの農作物やツバキへの食害が問題となっているほか、紀伊半島ではニホンザルとの交雑がおこっている。下北半島では、ニホンザルの北限個体群(国指定天然記念物)への遺伝子攪乱の危険性があったが、2004年までに全頭が捕獲された。

カニクイザル

分類: サル目オナガザル科

学名: *Macaca fascicularis*

英名: Long-tailed macaque, Crab-eating macaque

和名: カニクイザル

別名・流通名: カニクイザル

原産地と分布: インドネシア、フィリピン、ビルマ

未判定外来生物: *Macaca*属の全種(台湾ザル、カニクイザル、アカゲザル、ニホンザルを除く)

種類名証明書添付生物: *Macaca*属の全種

形態的特徴: 頭胴長オトナオス41~65cm、オトナメス39~50cm、尾長オトナオス44~66cm、オトナメス40~55cm、体重はオトナオス3.5~8.3kg、オトナメス2.5~5.7kg。毛色は褐色であるが、灰色がかったものから、黄色っぽいもの、暗い色のものと多様。腹部はやや淡い色をしている。顔面は黒っぽく、まぶたや目の周囲は白っぽい。



尾長は頭胴長とほぼ同じか少し長い

形態的に類似した種との識別点

・ニホンザル

- ・カニクイザルよりも大型
- ・尾は短く10cm程度
- ・毛色は褐色から灰色

尾が短い



特記事項: サル目オナガザル科は132種からなり、カニクイザルはニホンザル *Macaca fuscata* と同じ *Macaca* 属に分類される。日本では定着はしていない。毛色によってはアカゲザル *Macaca mulatta* とまぎらわしいものもあるが、尾の長さが頭胴長より短ければアカゲザル、長ければカニクイザルと見分けられる。

アカゲザル

分類: サル目オナガザル科

学名: *Macaca mulatta*

英名: Rhesus Monkey

和名: アカゲザル

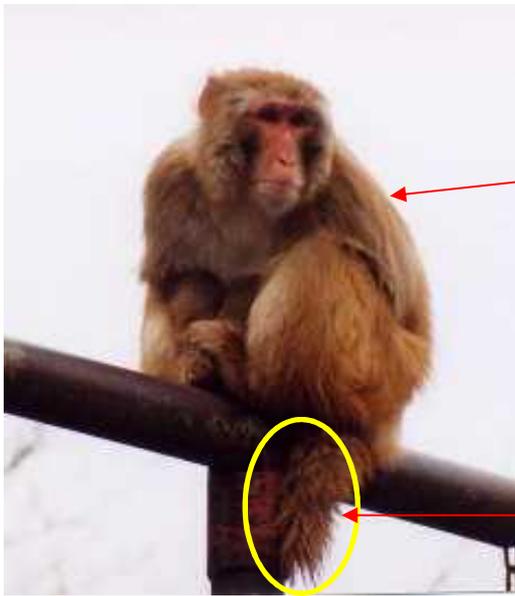
別名・流通名: アカゲザル

原産地と分布: インド、チベット(ヒマラヤ)、アフガニスタン、中国、ベトナム

未判定外来生物: *Macaca*属の全種(台湾ザル、カニクイザル、アカゲザル、ニホンザルを除く)

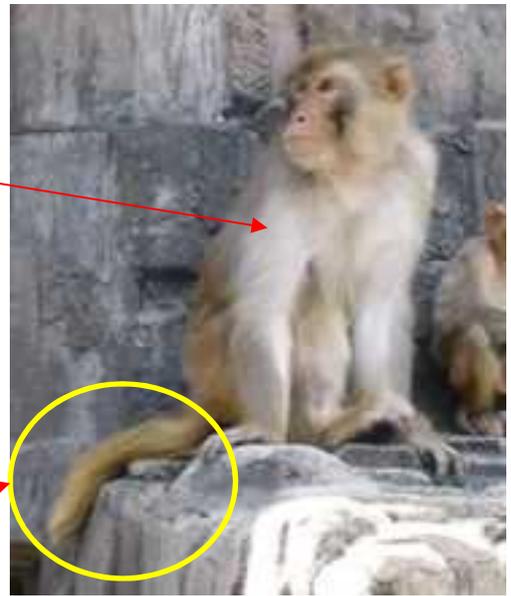
種類名証明書添付生物: *Macaca*属の全種

形態的特徴: 頭胴長47~64cm、尾長19~30cm、体重はメス5.4kg、オス7.7kg。尾の長さは近縁の台湾ザルよりは短い。毛色は全身がオレンジがかった赤褐色で、腹側は淡い色をしている。顔と尻には毛がなく、オトナでは赤い。



全身は赤褐色の毛に覆われるが、腹側は淡い。

長い尾



形態的に類似した種との識別点

・ニホンザル

- ・アカゲザルよりもやや大型
- ・尾が短く、10cm程度
- ・毛色は褐色から灰色

尾が短い



特記事項: サル目オナガザル科は132種からなり、アカゲザルはニホンザル *Macaca fuscata* と同じ *Macaca* 属に分類される。ニホンザルと比べると、体の大きさはほぼ同じであるが、尾の長さや毛色(ニホンザルは褐色から灰色)で違いがある。また、毛色によってはカニクイザル *Macaca fascicularis* とまぎらわしいものもあるが、尾の長さが頭胴長より短ければアカゲザル、長ければカニクイザルと見分けられる。

台湾ザルとニホンザルの交雑個体

分類: サル目オナガザル科

学名: *Macaca cyclopis* × *Macaca fuscata*
英名: Taiwan macaque × Japanese macaque
和名: 台湾ザルとニホンザルが交雑することにより生じた生物
別名・流通名: 台湾ザルとニホンザルが交雑することにより生じた生物
原産地と分布(台湾ザル): 台湾

未判定外来生物: *Macaca*属に属する種間の交雑により生じた生物
ただし、次のものを除く。台湾ザル×ニホンザル、アカゲザル×ニホンザル。

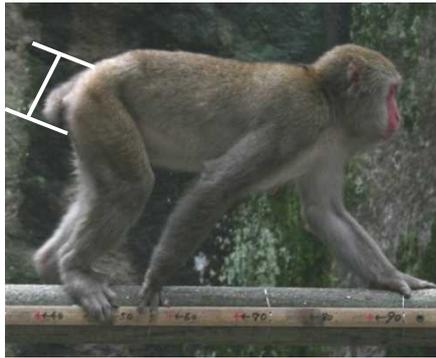
種類名証明書添付生物: *Macaca*属に属する種間の交雑により生じた生物

形態的特徴:

■ 相対尾長(頭胴長もしくは座高に対する尾長の割合)

台湾ザルの相対尾長は80%、ニホンザルは15%である。台湾ザルとニホンザルの交雑の場合子は両親の尾長のおおよそ中間の長さの尾をもつ傾向がある。

相対尾長は加齢に伴って減少し、和歌山県で調査された台湾ザル個体群の駆除個体の尾長・尾椎数の平均値は純粋台湾ザルと純粋ニホンザルの中間値に近い。



(写真提供: 大分市教育委員会)

ニホンザル



(写真提供: 和歌山台湾ザルワーキンググループ)

台湾ザルとニホンザルが
交雑することにより生じた生物



台湾ザル

特記事項: マカク属は20ないし22種をかぞえ、系統的近縁性に基づきいくつかの種群(species group、属と種との間のカテゴリー)に分けられ、カニクイザル、台湾ザル、ニホンザル、アカゲザルはカニクイザル種群に区分される。これら4種は形態学的に似ており、外観の形態学的差異では体色パターンと尾長の差が比較的目立つ。

アカゲザルとニホンザルとの交雑個体

分類: サル目オナガザル科

学名: *Macaca mulatta* × *Macaca fuscata*
英名: Rhesus macaque × Japanese macaque
和名: アカゲザルとニホンザルが交雑することにより生じた生物
別名・流通名: アカゲザルとニホンザルが交雑することにより生じた生物

未判定外来生物: *Macaca*属に属する種間の交雑により生じた生物
ただし、次のものを除く。台湾ザル×ニホンザル、アカゲザル×ニホンザル

種類名証明書添付生物: *Macaca*属に属する種間の交雑により生じた生物

原産地と分布(アカゲザル): 中国、インドシナ半島北部、ミャンマー、バングラデシュ、ブータン、ネパール、インド北部、パキスタンとアフガニスタンの北部

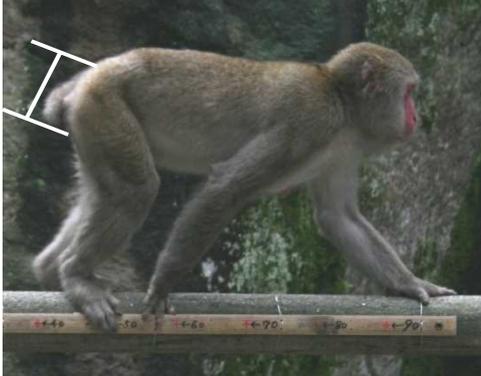
形態的特徴:

■相対尾長(頭胴長もしくは座高に対する尾長の割合)

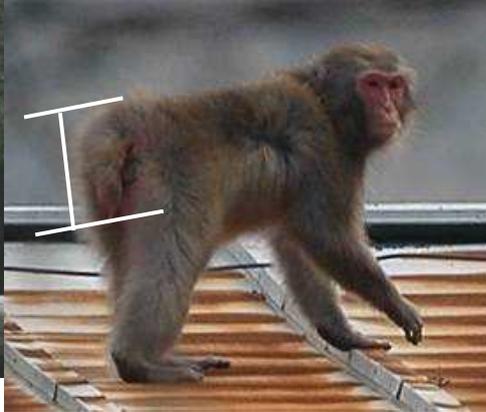
アカゲザルは頭胴長47~64cm、尾長19~30cm、体重5~8kg程度。アカゲザルとニホンザルの交雑個体はニホンザルより尾が長く、下半身の黄色味(あるいは赤味)が強いという、典型的なニホンザルとは異なる上半身と下半身の毛色のコントラストを持つ個体が多い。座高に対する尾長の割合の平均値は、東方グループ(中国とその周辺地域)のアカゲザルでは35%、西方グループ(インドとその周辺地域)のアカゲザルで45%、ニホンザルでは15%である。房総の交雑個体では35~40%の個体が多い。

■体色

千葉県で野生化し交雑個体の混ざるアカゲザル個体群のサルは、ニホンザルより尾が長く、下半身の黄色味(あるいは赤味)が強いアカゲザルの特徴がみられる個体が多い。



ニホンザル



アカゲザルとニホンザルが交雑
することにより生じた生物

千葉県ニホンザル個体群の交雑判定
済みのオトナメス(撮影:白鳥大祐氏)



アカゲザル

特記事項: マカク属は20ないし22種をかぞえ、系統的近縁性に基づきいくつかの種群(species group、属と種との間のカテゴリー)に分けられ、カニクイザル、台湾ザル、ニホンザル、アカゲザルはカニクイザル種群に区分される。これら4種は形態学的に似ており、外観の形態学的差異では体色パターンと尾長の差が比較的目立つ。

ヌートリア

分類: ネズミ目ヌートリア科

学名: *Myocastor coypus*

英名: Nutria(coypu)

和名: ヌートリア

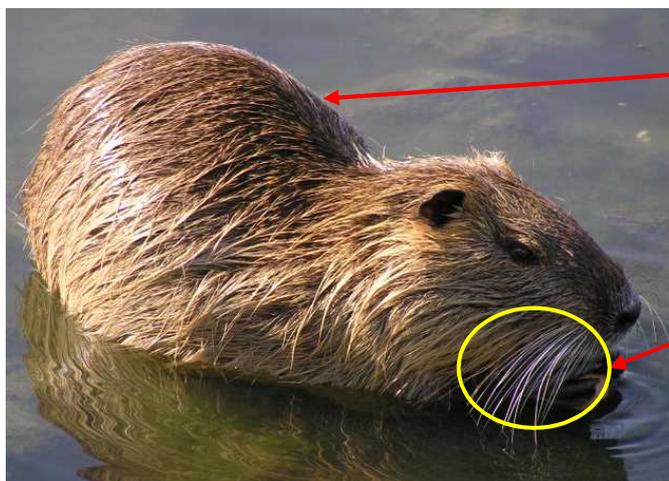
別名・流通名: ヌートリア

原産地と分布: 南アメリカ

未判定外来生物: なし。

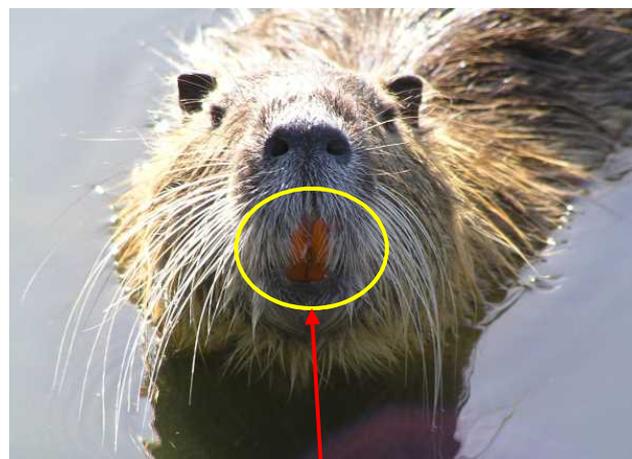
種類名証明書添付生物: パカ科、フチア科、パカラナ科、ヌートリア科の全種。

形態的特徴: 頭胴長40~60cm、尾長20~30cm、体重5~8kg。茶褐色の体毛、円筒状の尾にはまばらに毛が生える。切歯はオレンジ色。前後肢ともに5本の指をもち、後肢には水掻きをもつ。耳、目は小さい。鼻腔は大きく、長く白いヒゲが特徴。

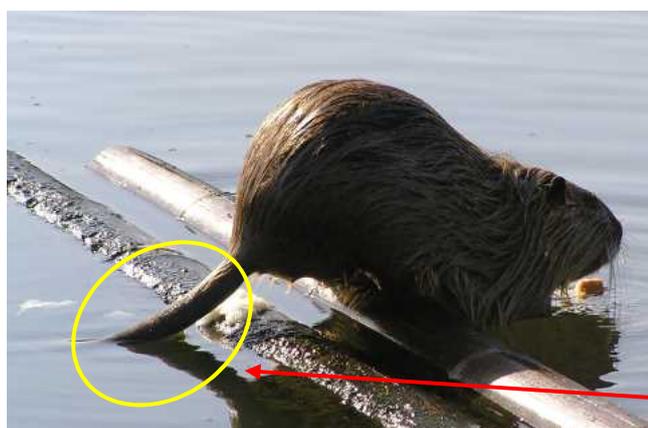


茶褐色の体毛

特徴的な、長く白いヒゲ



オレンジ色で大きく鋭い門歯



尾は円筒状で、まばらに毛が生える

特記事項: ヌートリアは、以前はネズミ目カプロミス科(Capromyidae)に属していたが、現在の分類では1属1種でヌートリア科に分類される。ヌートリアと同様に水辺に適応したネズミ類としてマスカラット *Ondatra zibethicus* (特定外来生物) がいるが、ヌートリアはマスカラットよりも大型で、ヒゲが長く白いのが特徴である。また、ヌートリアの後足には指の間に水かきがある。

クリハラリス

分類: ネズミ目リス科

学名: *Callosciurus erythraeus*

英名: Pallas's squirrel

和名: クリハラリス

別名・流通名: タイワンリス

原産地と分布: インド東部、ミャンマーからインドシナ、中国南東部、台湾

未判定外来生物: ハイガシラリス属の全種(トウブハイロリス、ニホンリス(*S. lis*)、キタリス(エゾリス)を除く)。

種類名証明書添付生物: リス科全種(第一次にて指定済み)
全てのリス類の輸入には衛生証明書が必要(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(平成十年十月二日法律第百十四号)第58条の2の規定による)

形態的特徴: 頭胴長20~22cm、尾長17~20cm、体重360g前後。背面は黒と黄土色の霜降り、腹面は淡い灰褐色。ニホンリスのように夏毛と冬毛のはっきりとした違いは見えない。体重はニホンリスの1.5倍ほどある。冬眠はしない。鋭い爪をもち、木の実などを両手で器用に採食する。



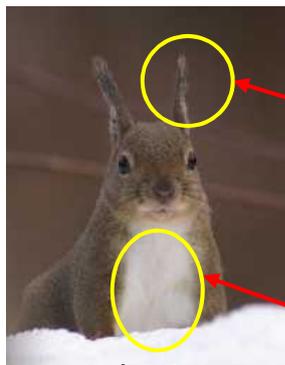
形態的に類似した種との識別点

●ニホンリス(本州・四国・九州)

- ・体色が夏毛では赤褐色、冬毛では灰褐色。
- ・腹部は夏毛、冬毛とも白色。
- ・冬毛になると耳先に毛が生え、先端が尖って見える。

●亜種エゾリス(北海道)

- ・体色が夏毛では赤褐色、冬毛では灰褐色。
- ・腹部は夏毛、冬毛とも白色。
- ・冬毛になると耳先に毛が生え、先端が尖って見える。



冬毛では耳の先に房毛が生える



腹部は白色

特記事項: ネズミ目リス科は278種からなる。日本では1930年以降にペットや動物園等から逃げた個体が野生化し、関東以西で定着している。日本に持ち込まれたのは台湾産のもので、「タイワンリス」は亜種名、種の和名は「クリハラリス」である。在来のニホンリスと比べると全体的に黒っぽい。高い声で鳴く。寒さに弱く、巣材として樹皮を利用する。

フィンレイソンリス

分類: ネズミ目リス科

学名: *Callosciurus finlaysonii*

英名: Finlayson's(or Variable) squirrel

和名: フィンレイソンリス

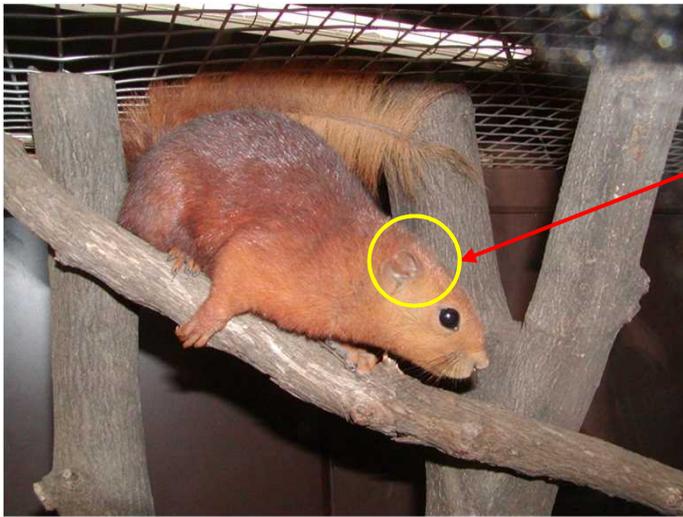
別名・流通名: フィンレイソンリス

原産地と分布: ベトナム、タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー等

未判定外来生物: ハイガンリス属の全種。ただし、次のものを除く。クリハラリス(台湾リス)、フィンレイソンリス。

種類名証明書添付生物: リス科全種(第一次にて指定済み)
全てのリス類の輸入には衛生証明書が必要(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(平成十年十月二日法律第百十四号)第58条の2の規定による)

形態的特徴: 頭胴長210-220mm、尾長220-240mm、体重250g程度であるが、個体差が大きい。体色も個体によって赤みがあった栗色から白色まで変異があり、季節によっても体色の変化がみられる



耳が短く丸い。

(写真提供: 日橋一昭)

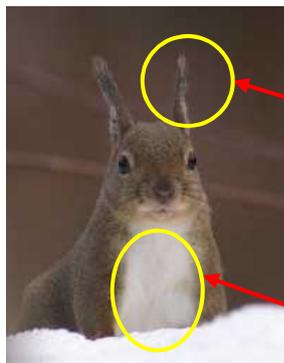
形態的に類似した種との識別点

●ニホンリス(本州・四国・九州)

- ・体色が夏毛では赤褐色、冬毛では灰褐色。
- ・腹部は夏毛、冬毛とも白色。
- ・冬毛になると耳先に毛が生え、先端が尖って見える。

●亜種エゾリス(北海道)

- ・体色が夏毛では赤褐色、冬毛では灰褐色。
- ・腹部は夏毛、冬毛とも白色。
- ・冬毛になると耳先に毛が生え、先端が尖って見える。



ニホンリス

冬毛では耳の先に房毛が生える

腹部は白色



亜種エゾリス

特記事項: ネズミ目リス科は278種からなる。国内での定着事例はないと考えられていたが、DNA調査によって静岡県浜松市の定着個体群の中に本種若しくは本種とクリハラリス(*C. erythraeus*)の交雑個体と考えられる個体が含まれていることが確認されている。

タイリクモモンガ(在来亜種エゾモモンガを除く)

分類: ネズミ目リス科

学名: *Pteromys volans*

英名: Eurasian flying squirrel

和名: タイリクモモンガ

別名・流通名: 稀にエゾリスとして流通

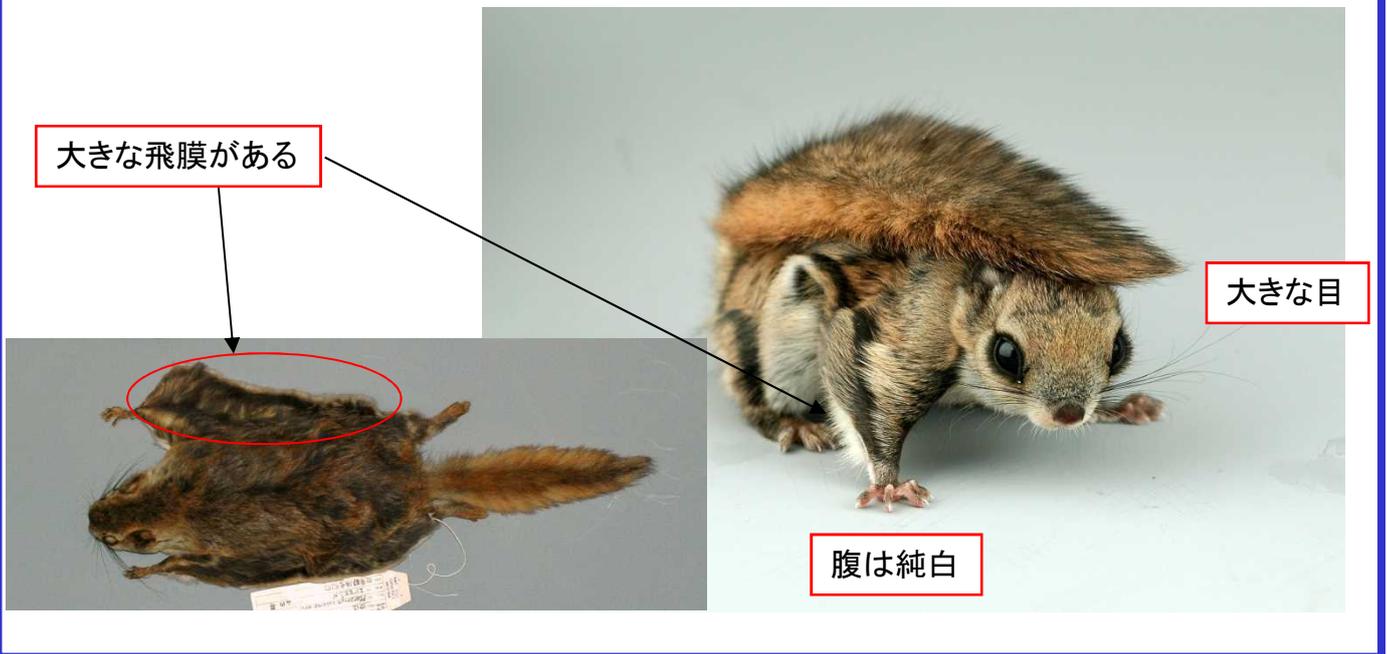
原産地と分布: ロシア、中国 (エゾモモンガは北海道固有亜種)。

未判定外来生物: なし

種類名証明書添付生物: リス科全種(第一次指定にて指定済み)

全てのリス類の輸入には衛生証明書が必要(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(平成十年十月二日法律第百十四号)第58条の2の規定による)

形態的特徴: 頭胴長15~16cm、尾長10~12cm、耳長 1.8cm~2.2cm程度、体重81~120g。目が非常に大きく前肢と後肢の間に飛膜があり、尾は扁平で夏毛は淡い褐色であり、冬毛は淡い灰褐色。腹面は白色、目の周りは黒褐色である。



形態的に類似した種との識別点

●ニホンモモンガ(本州・四国・九州)

・タイリクモモンガに非常によく似るが、乳頭が5対(タイリクモモンガは4対)であることが異なる。

●亜種エゾモモンガ(北海道)

・外見からの識別することは困難

特記事項: ネズミ目リス科は278種からなる。エゾモモンガは国内亜種であり、外来生物法の規制対象外であるが国内で捕獲禁止であるために輸入されることはない。これまでにキタリスは、主に中国から野生捕獲個体が輸入されてきたが、平成17年9月より感染症法の対象種となり、野生個体の輸入は禁止され、全てのリス類の輸入には衛生証明書が必要となった。ムササビ類も飛膜を持つリスの仲間であるが、ムササビ類は大型であり輸入されることはない。

トウブハイロリス

分類: ネズミ目リス科

学名: *Sciurus carolinensis*

英名: Eastern Gray Squirrel

和名: トウブハイロリス

別名・流通名: トウブハイロリス

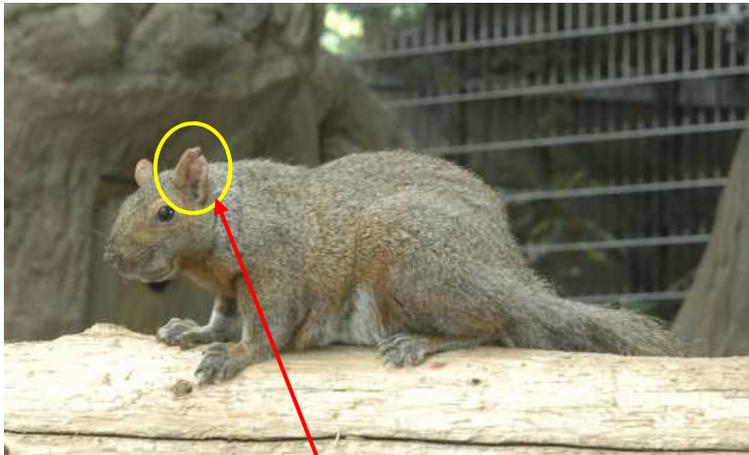
原産地と分布: 北アメリカ

未判定外来生物: 特定外来生物、ニホンリス及びキタリス(亜種エゾリス)を除く*Sciurus*属全種(第一次指定にて指定済)

種類名証明書添付生物: リス科全種(第一次にて指定済み)

全てのリス類の輸入には衛生証明書が必要(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(平成十年十月二日法律第百十四号)第58条の2の規定による)

形態的特徴: 頭胴長23~30cm、尾長14~26cm、体重340~800g。大型のリスで背側は灰褐色の体毛、腹側の体毛は白っぽい。尾は平らでふさふさの毛をもつ。耳の先の房毛は生じない。雑食性で、木の実、昆虫などを採食する。ニホンリスよりも大型で、耳の毛の付き方が異なる。



耳の先に房毛を持たない



腹側の毛は白色

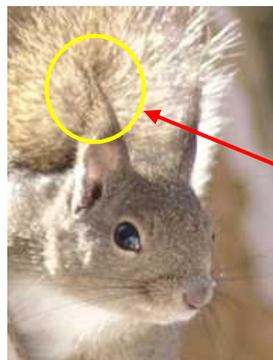
形態的に類似した種との識別点

●ニホンリス(本州・四国・九州)

- ・頭胴長16~22cm、体重250~300gでトウブハイロリスよりも小型である。
- ・体色が夏毛では赤褐色。
- ・冬毛になると耳先に毛が生え、先端が尖って見える

●亜種エゾリス(北海道)

- ・体色が夏毛では赤褐色
- ・冬毛になると耳先に毛が生え、先端が尖って見える



冬毛では耳の先に房毛が生える



特記事項: ネズミ目リス科は278種からなり、そのうちリス属 *Sciurus* はユーラシア大陸に28種が分布している。イギリスでは競争により在来のキタリス *Sciurus vulgaris* を駆逐しているほか、ヨーロッパでは感染症「リス・ポックスウイルス」を媒介し、キタリスの地域的な大量死に関わったとの報告もある。日本では野外での定着記録はない。

キタリス(在来亜種エゾリスを除く)

分類: ネズミ目リス科

学名: *Sciurus vulgaris*

英名: Eurasian red squirrel

和名: キタリス

別名・流通名: 稀にエゾリスとして流通

原産地と分布: ヨーロッパ各地とロシア, 中国(エゾリスは北海道固有亜種)

未判定外来生物: 特定外来生物、ニホンリス及びキタリス(亜種エゾリス)を除く*Sciurus*属全種(第一次指定にて指定済)

種類名証明書添付生物: リス科全種(第一次にて指定済み)

全てのリス類の輸入には衛生証明書が必要(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(平成十年十月二日法律第百十四号)第58条の2の規定による)

形態的特徴: 頭胴長22~27cm、尾長15~20cm、体重3~4kg。夏毛は赤褐色、冬毛は灰褐色であり、腹部は白い。尾の毛先は黒に近い暗色。冬毛では耳の先に房毛が生じる。ヨーロッパ産がアジア産より赤色度が強い傾向にある。

三角形の大きな耳



長く、ふわふわした尾

毛色は赤褐色から灰褐色
腹は純白
耳の先に4cm程度の房毛がある

形態的に類似した種との識別点

●ニホンリス

- ・キタリスに極めて似ているが、頭胴長16~22cm、体重250~300gでキタリスよりやや小型である
- ・尾の毛先が淡色で白色に近い

●亜種エゾリス

- ・外見からの識別は困難である

特記事項: ネズミ目リス科は278種からなり、そのうちリス属 *Sciurus* はユーラシア大陸に28種が分布している。日本では北海道に亜種エゾリス *S. v. orientis* が生息する。日本に導入すれば広く定着し、エゾリスとの交雑が懸念される。また、本州以南ではニホンリスとの生息空間を巡る競争などが予想される。

マスカラット

分類: ネズミ目ネズミ科

学名: *Ondatra zibethicus*

英名: Muskrat

和名: マスカラット

別名・流通名: -

原産地と分布: 北アメリカ原産, ヨーロッパ各地とロシアから中国にかけて移入し定着

未判定外来生物: なし。

種類名証明書添付生物: ヌートリア科、フチア(カブロミス)科、マスカラット(*Ondatra* 属)、ハカラナ科、ハカ科に属する全種(第一次指定にて指定済)

形態的特徴: 頭胴長20~40cm、尾長15~35cm、体重3~5kg。ヌートリア(頭胴長60cm)より小ぶりである。黒褐色の体毛は毛が細かく柔らかい。縦に平たい尾はうろこ状で、ほとんど毛はない。前後肢ともに5本の指をもち、それぞれの指には長く鋭い白っぽい爪をもつ。ヒゲをもつが、ヌートリアほど白くはない。



黒褐色の体毛

縦に平たく、オール状の尾



前足は指4本
後足の指は5本で、
柔らかい毛を持つ



長く鋭い白色に近い爪

特記事項: ネズミ目ネズミ科は730種からなり、マスカラット属はマスカラット1種である。ヌートリア *Myocastor coypus* (特定外来生物)も水辺に適応したネズミ類であるが、ヌートリアより小型で、長く鋭い爪があるのが特徴である。一般にペットとして飼育されることがないために、生個体が輸入されることは、殆どないと考えられる。

カニクイアライグマ

分類: ネコ目アライグマ科

学名: *Procyon cancrivorus*

英名: crab-eating raccoon

和名: カニクイアライグマ

別名・流通名: アライグマ

原産地と分布: 中央アメリカ、南アメリカ

未判定外来生物: なし。

種類名証明書添付生物: アライグマ属の全種

形態的特徴: 頭胴長45～61cm、尾長20～41cm、体重2～12kg。アライグマと良く似ている。アライグマと比べ体毛は黄色味を帯び、毛が粗く短く短い。アライグマと同様、蹠行性(つま先から足の裏全体を付けて歩くこと)で、目の周囲にはっきりした黒いマスク模様があり、少しとがった耳をしている。尾には暗色の7～8のリング状の模様がある。



アライグマによく似るが、毛が粗く短いため、体が細くみえる



アライグマ (*Procyon lotor*)

前足、後足の毛の色は、アライグマが白色で有るのに対し、カニクイアライグマは暗褐色をしているのが特徴

形態的に類似した種との識別点

<アライグマを参照>

特記事項: ネコ目アライグマ科は6属14種からなり、北アメリカ、中央アメリカ、南アメリカに分布する食肉類である。アライグマ属には、アライグマ (*Procyon lotor*)、トレマリアアライグマ (*Procyon insularis*) など5種が属している。カニクイアライグマは、日本にはアライグマに混入してペットとして持ち込まれた可能性はある。カニだけを食べるわけではなく、アライグマと同様雑食性で、野外で定着すれば農作物への被害などの問題を引き起こすおそれが高いと考えられる。

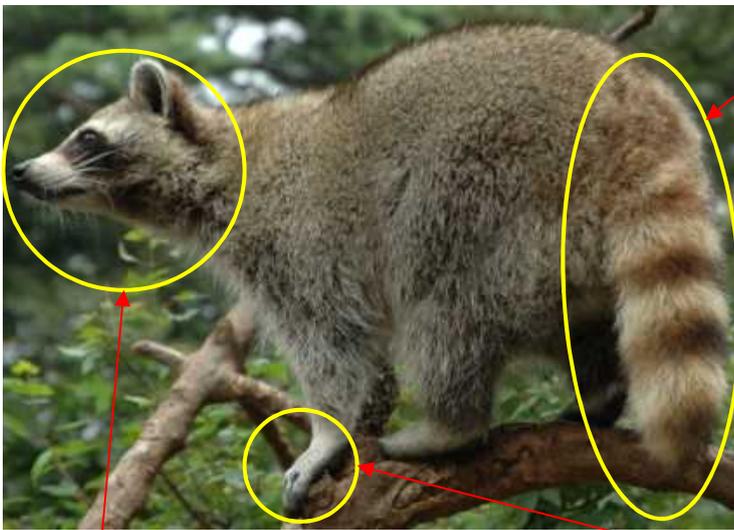
アライグマ

分類: ネコ目アライグマ科

学名: *Procyon lotor*
英名: Raccoon (Common raccoon)
和名: アライグマ
別名・流通名: アライグマ
原産地と分布: 北アメリカ

未判定外来生物: なし。
種類名証明書添付生物: アライグマ属の全種

形態的特徴: 頭胴長42~60cm、尾長20~41cm、体重6~10kg。体毛は灰白色で目の周囲にはっきりした黒いマスク模様がある。少し上がった耳をしている。尾には茶色と黒の横縞が交互につく。蹠行性(つま先から足の裏全体を付けて歩くこと)。臼歯が上下とも2対である。



尻尾の特徴

5つ程度の黒と茶色の輪模様



通常は、尻尾の輪模様は幼体や生まれて直ぐの個体でも確認できる

顔の特徴



とがった耳をしている

黒と白のマスク模様

個体差はあるが、鼻先までを挟んで、黒い箇所がつながっており、眉間の縞模様も特徴的。

指の特徴



細く長い指が5本。爪は短く湾曲していない

特記事項: ネコ目アライグマ科は6属14種からなり、北アメリカ、中央アメリカ、南アメリカに分布する食肉類である。アライグマ属には、カニクイアライグマ (*Procyon cancrivorus*)、トレマリアアライグマ (*Procyon insularis*) など5種が属している。日本にはカニクイアライグマが、アライグマに混入してペットとして持ち込まれた可能性はある。野外で定着すればアライグマと同じような農作物への被害などの問題を引き起こすおそれが高いと考えられる。

形態的に類似した種との識別点

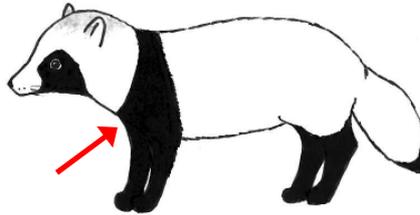
全身

顔の模様

足跡
(後) (前)

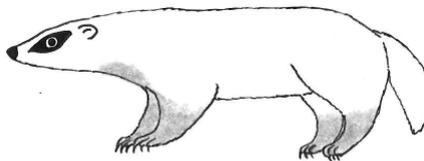
タヌキ

- ・前肢から肩にかけて黒い帯がある。
- ・四肢は黒色。
- ・指は4本で、イヌに似ている。



アナグマ

- ・四肢は短く、褐色か黒色。
- ・耳は小さく先端が丸い。鼻が大きい。
- ・指は5本で、湾曲した長い爪がある。



ハクビシン

- ・尾が長く、体の長さと同様。
- ・鼻から後頭にかけて白い帯がある。
- ・指は5本。



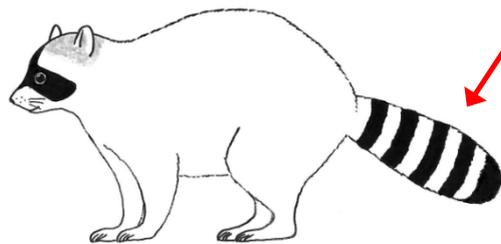
アライグマの特徴

全身

顔の模様

足跡
(後) (前)

- ・体重は4~10kg。
- ・尾を含めた長さは60~100cm。
- ・尾の黒い縞模様(5~7本)が大きな特徴。
- ・指は5本で、細長い。
- ・爪は短く、湾曲しない。



アメリカミンク

分類: ネコ目イタチ科

学名: *Mustela vison*

英名: American mink

和名: アメリカミンク

別名・流通名:

原産地と分布: 北アメリカ, ヨーロッパ各地などに移入

未判定外来生物: 特定外来生物、在来種(ニホンイタチ、チョウセンイタチ、イヌイタチ、オコジョ)及びフェレットを除く*Mustela*(イタチ)属全種

種類名証明書添付生物: イタチ属全種

形態的特徴: 頭胴長は雄 35~54cm、雌30~45cm。尾長は15~20cm程度。体重は0.7~1kg。毛は密生し、つやがある。産業用の養殖個体に由来するものは、毛色が白色や褐色、青灰色、黒褐色まで様々である。原種では体毛は茶色、冬毛はより暗色となる。



黒に近い黒褐色

顎や喉に白斑のあるものもいる



泳ぎがうまく、水辺を主な生息場所とする



体毛が茶色の個体

特記事項: ネコ目イタチ科は59種からなり、日本に生息するイタチ *Mustela itatsi* やテン *Martes melampus* も同じイタチ科に分類される。輸入量が多いフェレットとは形態的に類似する。ただしフェレットは毛色が褐色でない。イタチ類の輸入はフェレットを除けばほとんどない。また、全てのイタチ科の仲間は種類名証明書添付生物である。ミンクを代表とするイタチ類の野生個体の捕獲は難しく、既に国内の養殖施設で毛皮用ミンクの需要が激減しているために、輸入されることは殆どないと考えられる。

形態的に類似した種との識別点

●テン

●クロテン

- ・頭胴長などはアメリカミンクに似るが、体重が1.1～1.5kgとやや大型
- ・体色は様々だが、前後肢は常に黒ないし黒褐色
- ・耳介ははっきりと外に出る
- ・前臼歯は4/4(アメリカミンクは3/3)



テン

耳介ははっきり外に出る



●ニホンイタチ

- ・頭胴長は雄27～37cm、雌16～25cmであり、アメリカミンクよりも小型である
- ・体色は茶褐色から赤褐色
- ・目から鼻にかけて、はっきりとした黒いマスク部分がある
- ・鼻から顎、首にかけて白い斑がある



ニホンイタチ

黒いマスク部分



ファイリマンゲース

分類: ネコ目マンゲース科

学名: *Herpestes auropunctatus*

英名: Small indian mongoose

和名: ファイリマンゲース

別名・流通名: ファイリマンゲース

原産地と分布: ミャンマー、中国南部、バングラデシュ、ブータン、ネパール、インド、パキスタン、アフガニスタン、イラン。国内では沖縄島、奄美大島、鹿児島県鹿児島市に定着(※鹿児島市の個体については、根絶確認中)

未判定外来生物: マンゲース科の全種。ただし、次のものを除く。ファイリマンゲース、ジャワマンゲース、シママンゲース、スリカタ属全種(*Suricata*属)

※ミーアキャット(*S. suricatta*)も該当。

種類名証明書添付生物: マンゲース科の全種。

形態的特徴: 体色は黒褐色から黄土色で、四肢が短く細長い体型をしている。頭部は細長く、鼻先はとがり、耳介は目の横に位置する。前後肢ともに指は5本。頭胴長は250~370mm、尾長192~290mmであり、体の大きさが雌雄で異なる性的二型が見られ、雌は雄よりもやや小型である。



潰れたような耳介



雄

雌

メスがやや小さい

特記事項: ネコ目マンゲース科は33種からなる。最近の研究成果により、従来ジャワマンゲース(*H. javanicus*)とシノニムないし同種とされていたファイリマンゲース(*H. auropunctatus*)が別種とされ、国内に定着している個体群はファイリマンゲースであることが明らかになった。沖縄県や奄美大島の定着しているファイリマンゲースは、ネズミ類やハブの駆除を目的として放獣されたものが由来である。国内ではペットとして流通することはない。

形態的に類似した種との識別点

●テン

- ・体重は1kgを超え、ジュワマンゲース(1kg未満)よりも明らかに大きい
- ・耳介ははっきりと外に出る
- ・体毛の色は様々だが、一般的には黄色がかった茶色から濃い茶色
- ・前後肢は常に黒ないし黒褐色
- ・夏毛では顔は黒ないし黒褐色であることが多い



耳介ははっきり外に出る



テン

●ニホンイタチ

- ・体色はジャワマンゲースよりも褐色がかっている
- ・耳介は目より上に位置する
- ・目から鼻にかけて、はっきりとした黒いマスク部分がある。
- ・鼻から顎、首にかけて白い斑がある



耳介は目より上に位置する



ニホンイタチ

耳介は目の横に位置する



ファイリマンゲース

ジャワマンゲース

分類:ネコ目マンゲース科

学名: *Herpestes javanicus*

英名: Java(Indian) mongoose

和名: ジャワマンゲース

別名・流通名: ジャワマンゲース

原産地と分布: 中東からマレー半島にかけての地域が原産。国内では沖縄本島、奄美大島、鹿児島市に定着。

未判定外来生物:マンゲース科の全種(ジャワマンゲース、シママンゲース、スリカタ属全種(*Suricata*属(*ミーアキャット(*S. suricatatta*)も含む))。

種類名証明書添付生物:マンゲース科の全種。

形態的特徴:黒褐色から黄土色で、四肢が短く細長い体型をしている。細長い顔に、細長い目が特徴的である。体毛は比較的短い、背面と尾の毛はやや長い。頭胴と同じ程度の長さの尻尾を持つ。体の大きさが雌雄で異なる性的二型が見られ、雌は雄よりもやや小型である。頭胴長は雄28~37cm、雌27~32cm、尾長は雄19~28cm、雌19~25cm、体重は雄0.3~1kg、雌0.3~0.6kg。



潰れたような耳介



メスがやや小さい

特記事項:ネコ目マンゲース科は33種からなる。沖縄県や奄美大島の定着しているジャワマンゲースは、ネズミ類やハブの駆除を目的として放獣されたものが由来である。国内ではペットとして流通することはない。同じマンゲース科に属するシママンゲース *Mungos mungo* (特定外来生物) に似るが、シママンゲースは灰褐色であることと、背部の縞模様により判別ができる。

形態的に類似した種との識別点

●テン

- ・体重は1kgを超え、ジュワマンゲース(1kg未満)よりも明らかに大きい
- ・耳介ははっきりと外に出る
- ・体毛の色は様々だが、一般的には黄色がかった茶色から濃い茶色
- ・前後肢は常に黒ないし黒褐色
- ・夏毛では顔は黒ないし黒褐色であることが多い



耳介ははっきり外に出る



テン

●ニホンイタチ

- ・体色はジャワマンゲースよりも褐色がかっている
- ・耳介は目より上に位置する
- ・目から鼻にかけて、はっきりとした黒いマスク部分がある。
- ・鼻から顎、首にかけて白い斑がある



耳介は目より上に位置する



ニホンイタチ

耳介は目の横に位置する



ジャワマンゲース

シママンゲース

分類: ネコ目マンゲース科

学名: *Mungos mung*

英名: Banded Mongoose

和名: シママンゲース

別名・流通名: シママンゲース

原産地と分布: サハラ以南のアフリカ(コンゴ及び南西アフリカを除く地域)

未判定外来生物: マンゲース科全種(ジャワマンゲース、シママンゲース、スリカタ属全種を除く)

種類名証明書添付生物: マンゲース科全種

形態的特徴: 頭胴長30-40cm、尾長20-25cm、体重が1-1.5kgの中型肉食獣。背の中ほどから尾の付け根にかけて連続する黒い縞模様が特徴。足と尾の先も暗色で、その他の毛皮の色は明るい。耳は小さく、丸みを帯びる。前肢、後肢ともに指は5本。



肩から尾の根本にかけての背側に10~15本の縞があるのが大きな特徴

尾の長さは頭胴長の約60%。



耳は小さく丸みを帯びる

前肢、後肢ともに指は5本。足裏には毛がない。



撮影協力: 埼玉県こども動物自然公園

特記事項: ネコ目マンゲース科は33種からなる。同じマンゲース科に属するジャワマンゲース *Herpestes javanicus* (特定外来生物) に似るが、体色はジャワマンゲースが黒褐色から黄土色であるのに対し、シママンゲースは灰褐色であること、背部の縞模様が特徴である。現在のところ、国内外での定着事例は知られていない。

シカ亜科(アキシスジカ属、シカ属、ダマジカ属、シフゾウ属) (ニホンジカの在来亜種を除く)

分類: ウシ目シカ科

学名: Cervinae

英名: Deer, Elk, Wapiti, Dama, Axis, Thamin など

和名: シカ, ニホンジカ, ダマジカ, エルク, 水鹿, 梅花鹿など

別名・流通名:

原産地と分布: 北アメリカ原産, ヨーロッパ各地, ロシア, 中国など

未判定外来生物: なし

種類名証明書添付生物: アキシスジカ属、シカ属、
ダマシカ属の全種及びシフゾウ

形態的特徴: オスはいずれの種も大きな角を有し、種類によって枝分かれに特徴を持つ。体色は種類、個体によって差が大きい。一般的には赤褐色、灰褐色になることが多い。コドモは鹿の子模様(斑点模様)。

アキシスジカ属 *Axis* の特徴

アキシスジカ (*Axis axis*)などが含まれ、主に東南アジアに分布する。角は3つに枝分かれし、尾が長い。体には夏毛、冬毛とも白い斑点がある。



アキシスジカ (*Axis axis*)

シカ属 *Cervus* の特徴

アカシカ (*Cervus elaphus*)やニホンジカ (*Cervus nippon*)などが含まれる。尾は短く、尾の先に長い毛はない。角の眉枝(第1枝)は枝分かれしない。

ダマシカ属 *Dama* の特徴

ダマシカ (*Dama dama*)などが含まれる。角は普通扁平であり、手のひらのような形をしている。夏毛には白い斑紋があるが、体色には変化がみられる。

シフゾウ属 *Elaphurus* の特徴

シフゾウ (*Elaphurus davidianus*) 1種からなる。尾が長く、尾の先に長毛のふさがある。耳は小さく、頸(くび)にはたてがみがある。角の眉枝(第1枝)は2つ以上に分かれる。



ワピチ (*Cervus canadensis*)

特記事項: シカ亜科には、アキシスジカ属(*Axis*)4種、シカ属(*Cervus*)10種、ダマ属(*Dama*)2種、シフゾウ属(*Elaphurus*)1種の合計17種が知られる。このうちシカ属には、ニホンジカ(*C. nippon*)のほか、クチジロジカ(*C. albirostris*)、ヌマジカ(*C. duvanceli*)、アカシカ(*C. elaphus*)、ターミンジカ(*C. eldi*)、ルサジカ(*C. timorensis*)、サンバー(*C. unicolor*)などが含まれる。なお、ニホンジカ(*Cervus nippon*)には、在来のニホンジカ亜種((ホンシュウジカ(*C.n.nippon*))、ケラマジカ(*C.n.keramae*))、ツシマジカ(*C.n.pulchellus*)、ヤクシカ(*C.n.yakushimae*)、エゾシカ(*C.n.yezoensis*)などと、その他の外国産亜種が含まれる。

キョン

分類: ウシ目シカ科

学名: *Muntiacus reevesi*

英名: Reeve's(orChinese)Muntjac

和名: キョン

別名・流通名: キョン

原産地と分布: 中国南部、台湾

未判定外来生物: ホエジカ属の全種(ただし、キョンを除く)。

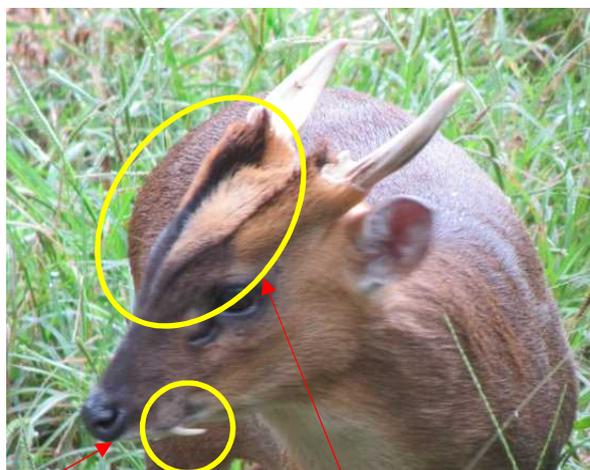
種類名証明書添付生物: ホエジカ属の全種。

形態的特徴: 体色は茶褐色で、腹面は黄色がかる。目の下に大きな臭腺があり。頭胴長1m以下、尾長15cm、肩高は雄48cm、雌45cm、体重は雄成体14kg、雌成体12kgある。雄は角(角長12~15cm)と発達した犬歯をもち、目の上から頭頂にかけて黒い線が走る。雌は額に目の上から頭頂部にかけて菱形に見える黒帯がある。

キョン(雄)



キョン(雌)



発達した犬歯

雄は額に2本の黒線(前頭線)がある



雌は額に菱形の黒帯がある

特記事項: ウシ目シカ科は51種からなる。同じシカ科であるニホンジカとは、体の大きさが大きく異なり、キョンの雄成獣は肩までの高さは50~60cm、体重は12~14kg程度であり、ニホンジカの雌成獣(肩までの高さが60~110cm、体重20~80kg)より、かなり小さい。ニホンジカの幼獣とでは、冬期であればニホンジカの幼獣もキョンの成獣より大きくなる。また、特徴的な額の黒い模様や、オスの場合短い角と上あごの発達した犬歯から、見間違える可能性は少ない。